



なんよう



No.115
2025.9.1

「経済学部改組について」

佐賀大学経済学部長 羽石寛志

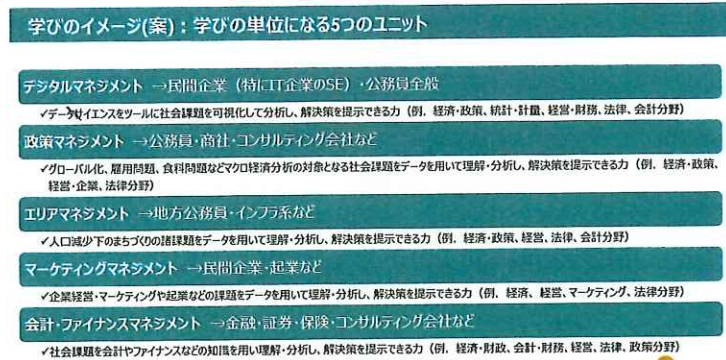
経済学部では、2027年4月（令和9年）より、これまでの3学科体制から経済学科1学科へと統合する設置計画を予定しております。

近年のデジタル革命などにより、データや情報が社会の中心価値を持つようになり、物理的資源や労働力に依存する従来の経済モデルから、知識や情報を活用する新しい経済モデルへと移行しています。この社会の変化に対応するため、新たな能力を持った人材の輩出が必要となってきました。そこで、本学部では社会科学（経済学・経営学・法学）の思考力をベースに、データサイエンスの基礎能力とプロジェクトマネジメント能力を兼ね備えた人材を育成することを目的とした計画です。

新学部では、複数の視点（複眼的視野）で社会課題に高い解像度に対応する力に重点を置き、デジタル社会やDX（デジタルトランスフォーメーション）に対応できる教育内容を導入します。学生はこれまでの社会科学の学びに加え、統計手法やプログラミングに触れながら、実践的なプロジェクトを通じて課題解決力を養い、卒業後は様々な進路で活躍することが期待されます。

新たなカリキュラムでは、学びの単位として5つのユニットを設け、卒業後の進路や興味のあるユニットについて、卒業までに最低1ユニットの修了を必要とします。また、複数のユニットの履修も可能であり、オープンバッジを授与することで卒業後の学びの継続にも繋がる仕組みを計画しています。

なお、設置計画は予定であり、変更する場合があります。



➤ ゼミと連動し卒業までに一つ以上のユニットを習得

➤ 各ユニットは、それぞれの指定科目をデータドリブン科目・プロジェクトデザイン科目・社会科学科目より10科目を選択必修

➤ 卒業までに複数ユニットの修得も可能とする（各ユニット毎に修了認定（オープンバッジを活用したマイクロクレジット））

令和7年度総会・懇親会報告 令和7年度楠葉同窓会総会を「旅館あけぼの」で開催

令和7年度の楠葉同窓会総会が令和7年5月24日(土)16時から佐賀玉屋西の「旅館あけぼの」にて開催されました。総会では、江口達也楠葉同窓会会長の挨拶のあと、令和6年度事業、決算及び監査報告があり、その後、事務局から提案された令和7年度事業計画(案)、予算(案)及び経済学部への寄附講座に関することが了承されました。

総会後には初の試みとして、佐賀大学落研OBで現在も各所で活躍中の「せんだん亭三鶴」さまをお招きして、自身の持ちネタをご披露いただきました。自分も目の前で落語を聴くのは初めてで、大変楽しませていただきました。

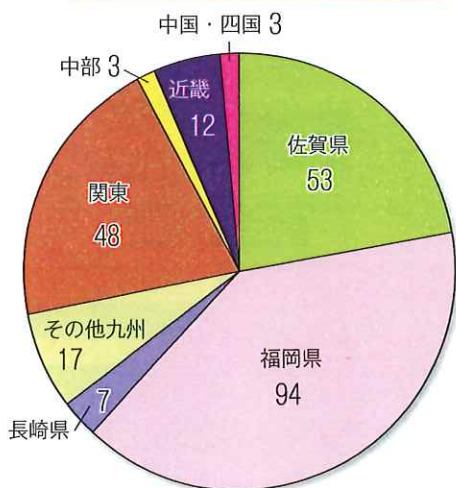
そのあとの懇親会で各支部の方とお話しする中で話題になるのは、やはり支部の活性化についてでしたが、今回のように様々な分野で活躍中の経済学部OBを招くのもありかと思いました。

【総会】日時：令和7年5月24日(土) 16時～
会場：旅館あけぼの(佐賀市中の小路3-10)

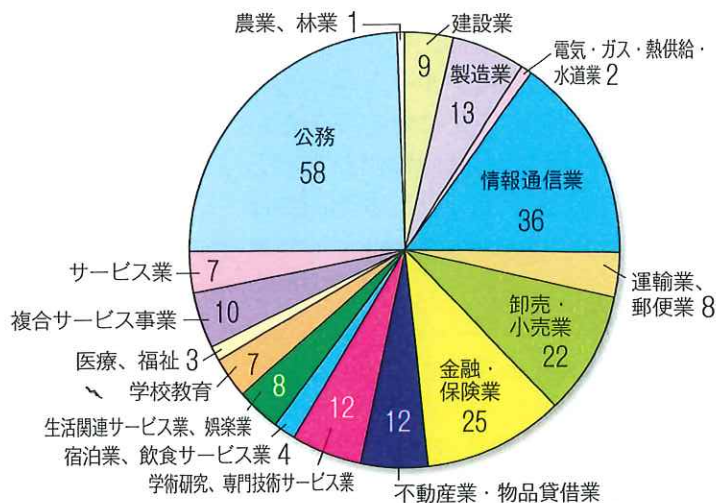


令和6年度 経済学部の就職状況

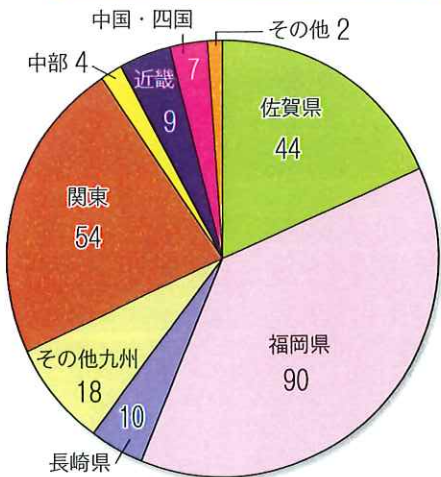
地域別就職状況 (令和7年3月卒)



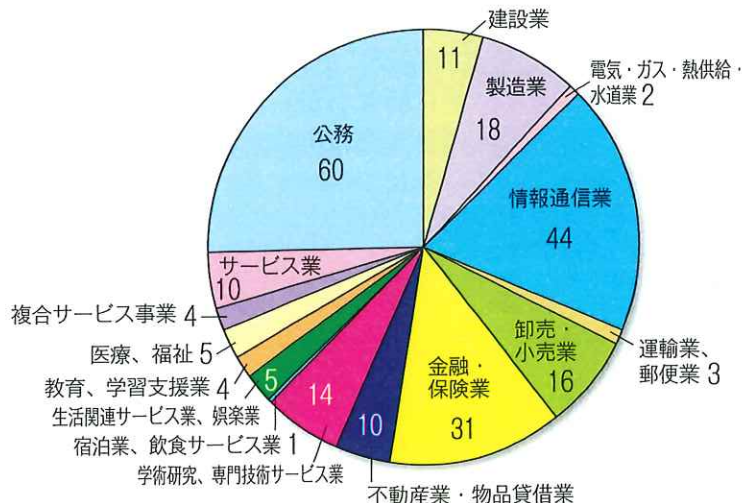
産業別就職状況 (令和7年3月卒)



地域別就職状況 (令和6年3月卒)



産業別就職状況 (令和6年3月卒)



経済学部就職委員長 角田幸太郎



楠葉同窓会の皆様におかれましては、日頃よりさまざまな形で本学部生へのご支援を賜りまして誠にありがとうございます。令和6年度より本学部就職委員長を務めております、角田（すみだ）と申します。ウェルビーイング創造センターリカレント教育部門長も兼任しており、18歳人口が急激に減少する中、地域社会に貢献するべく、社会人の学び直しにも力を入れ始めています。佐賀大学では授業開放や公開講座などの既存のレディメイド型だけでなく、需要に応じたオーダーメイド型プログラムにも力を入れていきますので、「佐賀大学」「リカレント教育」で検索してみてください。佐賀県自体を活気づけていきたい所存です。

さて、本学部の令和6年度（令和7年3月卒）の就職状況につきまして、就職希望者240名に対して就職者236名となり、就職率は98.3%（前年度は100%）でした。求人は売り手市場の状況ですが、就職活動が円滑に進まない学生に対しては継続的な支援やケアを行う必要があると認識しています。

大学の講義は令和5年度からは対面授業にほぼ戻っていますが、就職説明会やインターンシップは対面での開催だけでなく、コロナ禍の代替手段として導入されたオンラインによる遠隔での開催も便利なものとして定着しました。その結果、コロナ禍後は、学生の就職活動の地域の選択肢が広がっています。以下は、本学部卒業生の令和元年度以降の地域別就職状況の推移を示したデータです。

◇卒業生の地域別就職状況の推移

地域別	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
佐賀県内	63名	63名	58名	46名	44名	53名
福岡県内	95名	81名	86名	85名	90名	94名
関東	37名	33名	40名	52名	54名	48名

前年度までの2年間は「福岡県内への就職者数は現状維持、佐賀県内への就職者数は年々減少、関東への就職者数は佐賀県内への就職者数よりも多くなっている状況」でしたが、令和6年度は佐賀県内就職者数が回復し、関東への就職者数よりも多くなりました。その要因としまして、佐賀県内に限りますと、令和6年度は前年度よりも民間企業就職者が2名増え、公務員合格者が6名増えております。

次に、本学部卒業生の令和元年度以降の産業別就職状況の推移を示したデータです。

◇卒業生の産業別就職状況の推移

産業別	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
公務	43名	54名	39名	41名	60名	58名
情報通信業	33名	23名	35名	34名	44名	36名
金融・保険業	33名	32名	15名	20名	31名	25名
卸売・小売業	24名	15名	26名	31名	16名	22名
製造業	24名	20名	27名	24名	18名	13名

産業別で見ますと、本学部では公務員、情報通信業、金融・保険業、卸売・小売業、製造業に就職する学生が多いです。この3年間は公務員、情報通信業、金融・保険業の順となっています。卸売・小売業は年度によって著しくばらつきがありますが令和6年度は増加しました。一方で、製造業は3年連続減少しています。

昨今の就活情勢は大きく変化しており、売り手市場が強まり、民間企業の就職内定の早期化がさらに進んでいます。インターンシップを実施する企業が増えました。インターンシップは学部3年あるいは大学院修士1年の夏季休暇期間中に実施されることが多く、参加必須ではないものの、その後の選考に有利に働くこともあるようです。本学部就職委員会では主に学部3年生を主な対象として、就職ガイダンスを実施し、さまざまな形で情勢変化の伝達と啓蒙を行っております。就職状況のデータを見ますと、多くの学生がこのような環境変化にも関わらず、うまく適応して内定等を得ているようにみえますが、一部の学生は適応に苦しんでいる様子も散見されます。

このような情勢の下、人的な繋がりがより一層重要性を帯びてきています。楠葉同窓会の皆様には引き続き、本学部生への厚いご支援を賜るべく、心よりお願い申し上げます。

佐賀大学だから出会えた仲間と夢

「在学生の声」

佐賀大学経済学部 経営学科3年 澤田 昇英

はじめまして。佐賀大学経済学部経営学科3年の澤田昇英と申します。今回は、私が佐賀大学で出会った仲間や挑戦、そしてそこで見つけた夢についてお話しします。

正直なところ、私はもともと佐賀や佐賀大学に強い思い入れがあったわけではありません。簿記を学びたかったこと、受験しやすかったこと、家から近かったこと——そんな理由で佐賀大学への進学を決めました。

そのような私の考え方を大きく変えてくれたのが、佐賀大学での出会いでした。特に、角田教授との出会いは大きな転機となりました。教授も私と同じく佐賀大学一年目。地元の話や会計の話を通じて親しくなり、「この先生と一緒にゼロからゼミを作っていきたい」と思い、角田ゼミに入りました。

ゼミに入る前から、集まったメンバーとご飯会や簿記勉強会を企画し、仲間との絆を深めてきました。2年生からは、他ゼミとの交流、学会参加、九州大学との合同ゼミ、税務署と連携した租税教室など、さまざまな挑戦を重ねています。気づけば、全員の誕生日会まで開くような温かく楽しいゼミになり、「自分から動けば、佐賀大学には挑戦できる環境と応援してくれる人がいる」と日々実感しています。教授との距離が近く、気軽に相談や挑戦ができるのも、佐賀大学ならではの魅力だと感じています。

中でも自分の中で大きな挑戦だったのが租税教室の実現です。最初は角田教授から税務署のアルバイトを紹介していただき、確定申告のお手伝いをしたことがきっかけでした。その後、自分で税務署の方と関係を築き、交渉を進め、佐賀県内の高校で租税教室を開催することができました。新聞にも取り上げていただき、「自分の力で形にできた」という経験は大きな自信となりました。

現在はゼミ長として、地域のサッカークラブ「ブリュー佐賀」と連携した地域活性化プロジェクトや、2年目となる租税教室にも取り組んでいます。休日には「佐賀バルナーズ」の試合を観に行ったり、佐賀市内のカフェをめぐったりしながら、地元ならではの魅力を再発見しています。かつての私は「佐賀なんて…」とどこか自信を持てずにいましたが、いまはむしろ「佐賀って面白いな」「まだまだ知らない良さがある」と感じるようになりました。

こうした挑戦や日常を通じて気づいたのは、「地域だからこそできること」がたくさんあるということです。都市と地方という単純な対立ではなく、地方には地方ならではの価値や可能性があり、それを掘り起こす面白さがあると実感しています。

そんな私の夢は、「佐賀の人に佐賀を好きになってもらうこと」です。角田教授や仲間たちと過ごすうちに、私自身が佐賀を大好きになりました。だからこそ、かつての私のように「佐賀なんて…」と感じている人たちに、佐賀の本当の魅力を伝えたい。そして、「佐賀っていいよね」と胸を張って言える人を一人でも増やしたい。そのために、地域や人をつなぐ仕事に就き、佐賀の未来に貢献したいと考えています。

そのためにも、残りの大学生活で多くのことを学び、挑戦を続けていきます。

ここまでお読みいただき、ありがとうございました。





卒業生の近況報告



佐賀から育む“箱”の価値

平成29年経済学部 経済学科入学 児玉 浩史

株式会社コダマシキ/ノギ共同代表

皆さま、こんにちは。

佐賀大学経済学部経営学科を2023年に卒業いたしました、児玉浩史と申します。

このたびは同窓会会報への寄稿の機会をいただき、誠にありがとうございます。私の近況をお伝えし、少しでも皆さまとつながりを感じられれば幸いです。

在学中は松尾陽好先生のもとで学びつつ、主にアジアや関東・関西で新規事業の立ち上げに携わり、とても有意義な学生生活を送ることができました。さまざまな土地や文化に触れる経験や、その時にできた仲間は、今も私の大切な糧となっています。

大学3年生のとき、仲間たちと「ノギ」というコワーキングスペースを立ち上げました。当時、学生の「やりたいこと」を応援したり、熱意ある人たちが集まる場所はまだまだ多くありませんでした。ノギでは佐賀大学生はもちろん、県内外の学生起業家やフリーランス、経営者の方々も集い、対話を重ねながら時間を共有しています。運営を通じて多くの学びや刺激を得るとともに、現役大学生の優秀さに日々感銘を受けています。

また、ノギは県や市の行政からの受託事業にも携わるようになりました。学生たちの多様な活動の成果を発信する場としてだけでなく、地域のイベントや企業と学生の交流イベントの企画・運営にも主にに関わり、地域社会とのつながりも深めています。

2年前からはノギの活動を続けつつ、家業である株式会社コダマシキに戻りました。当社は段ボールの製造・加工および包装資材全般の販売を行う、佐賀県に根ざしたものづくり企業です。昨年創業60周年を迎え、曾祖父から祖父、父へと受け継がれ、私が4代目として将来的に経営を担う責任の重さを日々実感しながら学んでおります。

これまでお話ししたコワーキングスペースの運営、イベント企画、段ボール製造の業務は、一見すると関連がなくバラバラに見えるかもしれませんが、しかし私にとってはすべてが「箱屋さん」の仕事です。建物としての箱、イベントという箱、物体としての箱。これらは異なる形の「箱」ですが、ご利用いただく方々、参加者の皆さま、商品をつくる方々に支えられています。これからも佐賀の地域に根ざした「箱屋さん」として、価値を創り続けてまいります。

最後となりましたが、当時お世話になった先生方、今もお世話になっている先生方、そして佐賀大学と楠葉同窓会の皆さまに心より感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお祈り申し上げます。

また、皆さまの今後ますますのご発展とご健康をお祈り申し上げます。





卒業生の近況報告



地域の力がより円滑に発揮されるお手伝いを

平成29年経済学部 経済学科入学 江頭宗次郎

株式会社丸宗代表/ノギ共同代表



皆様こんにちは。

佐賀大学経済学部経営学科を2023年に卒業いたしました、江頭宗次郎と申します。

このたびは、同窓会会報への寄稿の機会をいただき、誠にありがとうございます。

私は、5年前の在学中、同世代のメンバーたちと「ノギ」という施設を始めました。ノギは、2F住居、1Fがコワーキングスペースになっている施設で、学生さんからフリーランスの方など幅広い方にご利用いただいております。住居と作業スペースが一体となることで、がんばりたい方の活動基盤を全面的に支えられると考えております。

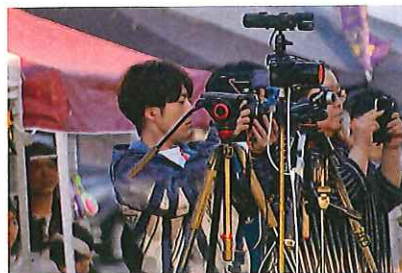
その他事業として佐賀県の事業なども受託させていただいております。また最近では、住居スペースにて留学生の方の受け入れを開始し、様々なバックグラウンドを持った人たちが集える場所としての価値が高まっているように感じます。

また、ノギのメンバー共通でノギの他に何かしらの軸となる活動を持っています。私は「株式会社丸宗」という会社を小さく経営しております。映像・音声コンテンツの企画制作業や、地域のプロジェクトのマネジメント・プロデュース業を行っております。地域プロジェクトと書いておりますが、内容としてはシステム開発を軸とした業務や職場環境の向上から、店舗の立ち上げ、プロモーション・ブランディングなど多様になっており、地域でたくさんの価値が試行錯誤の中で生み出されていることを日々痛感しながら活動しております。ノギの運営メンバーの目標として「自分たちも利用者である」という意識も大切にしており、オフィスはノギにあります。

一見、活動はバラバラな印象を持たれるかもしれませんが、私の中では明確に「心地よさ・円滑さ」を提供するという軸を持っています。業務やコミュニケーション、得意・不得意などを、解決への実働は弊社、それをつなぐメディアの一つとしてノギが間に入ることで、情報の整理やリスクの管理、紹介や連携を行い、心地よく円滑にしていく。現段階でもいくつかの場面でそういった立場で活動させていただいていることに日々感謝しながら生きております。

これからも、少しでも多くの方に心地よさ、円滑さを提供できるよう日々努めて参ります。

皆さまもそれぞれの道でご活躍のことと存じます。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願ひ申し上げます。末筆ながら、皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



今年もやいます!「同窓会フェス」♪

本会は教育学部、芸術・地域デザイン学部、医学部、農学部の同窓会との共催で11月9日(日) 10:30~16:00(予定)、「第3回目同窓会フェス」を佐賀駅前交流広場で開催します(入場無料)。

本会は設立以来、原則として毎年、同窓生同士の交流会を佐賀市内の施設内で立食形式等で開催してきましたが、昨今のライフスタイルの多様化を踏まえ令和5年より屋外でのフェス形式に変更しました。このことにより、同窓生だけでなく在学生もより一層「気軽に」、「楽しく」参加でき、在学生や保護者への同窓会の広報強化を図ることができました。これまで同窓生による講演、在学生による演奏、パフォーマンスに加え、農作物の販売や本学と関係のある団体、業者による出店等、様々なコンテンツを加え、参加者がいつ来ても楽しめるスタイルとしています。お蔭様で毎回、一般の方も来場され、販売品が完売する等、大盛況です。

昨年もたくさんの来場者に恵まれ、よさこいサークル「嵐舞」、教育ボランティアサークル「ぞうさんのWa」、医学部チャリーディング部によるパフォーマンスや世界中を自転車で旅する西野旅峰(同窓生)さんによるトークショーを楽しみました。また、有田焼の絵付け体験や本格中国茶、フェアトレードコーヒーや農学部による花・農作物の販売に加え、「みつせ鶏本舗」、「あしかり豆美人」、「よなよなあん工房」が出展し、大変好評でした。

第3回同窓会フェスの内容については、実行委員がより一層の充実に向けて検討中です。同窓生はもちろん、どなたでも参加可能です。ご家族、ご友人もお誘いいただき是非、皆さんでお越し下さい。



令和6年度佐賀大学同窓会神埼地区会に参加して

昭和56年経済学部 経済学科入学 江口 達也

令和6年9月28日(土)17時から割烹「菊水」で開催された神埼地区会に参加してきました。

総会には21名の参加がありました。最初に古賀季夫神埼地区会長挨拶がありました。次に来賓を代表して山田直行全学同窓会会長の挨拶があり、引き続き「ふるさとスケッチ神埼編」と題し講話がありました。

神埼地区は平成27年に発足し近年は高齢化により参加者が減少しているそうです。どこの支部でも同様だと思いますが、若い世代へ存在を広め参加を促していく必要性について報告されていました。

引き続き開催された交流会では思いがけない人とのつながりを発見できました。まさにこれこそが同窓会の醍醐味だと感じました。この輪をいかに広めていくか、これからも神埼地区会が発展するよう知恵を出し合いたいと思います。



令和6年度佐賀大学同窓会唐津地区総会・懇親会に参加しました

昭和56年経済学部 経済学科入学 江口 達也

令和7年2月8日(土)14時からレストラン「ソアヴィータ」で開催された唐津地区会に参加してきました。

総会には11名の参加がありました。最初に宮崎恵司唐津地区会長挨拶があり、来賓紹介、全学同窓会会長挨拶、事業及び会計報告、新役員の紹介で総会が閉会しました。引き続き、懇親会及び情報交換が行われました。懇親会に先立ち前田勤さん(理工学部・昭49年卒)から「耐恒寮から出た逸材」と題し辰野金吾らの紹介がありました。

今回、唐津地区では150名の同窓生に案内を出したそうです。また、参加者に楽しんでもらおうと落語研究会OBによる落語を計画されていました。このような計画を事前告知できれば参加者増につながる可能性があります。また、唐津は海の幸、山の幸が豊富なので同窓生に

協力してもらってマルシェを計画してはどうかなど意見交換をしました。

最後に、佐賀駅前交流広場で開催している佐賀大学同窓会フェスの紹介をしましたが、一人も知っている人はいませんでした。もっともって広報に力を入れて、内容も充実させていかなければと強い思いを抱いて唐津を後にしました。



令和6年度豊後はがくれの会(大分県支部)総会に参加しました

昭和56年経済学部 経済学科入学 江口 達也

令和7年2月22日(土)17時から大分市ホルトホール大分4階会議室で開催された、豊後のはがくれの会(大分県支部)に参加してきました。

総会には17名の参加がありました。最初に清水義信支部長挨拶があり、来賓紹介、議事(経過報告、次年度行事予定、役員改選)が行われ閉会しました。引き続き、会場を3階カフェレストラン「ホルトガーデン」に移し懇親会が行われました。懇親会では自己紹介と近況報告でお互いの距離が一気に縮まりました。クライマックスはトーナメント方式のじゃんけん大会です。大分の特産品はじめ豪華賞品が準備されていました。私は優勝賞品の大分県産いちご「ベリーツ」がどうしても欲しくて必死に戦いました。1回戦、2回戦とあいこを繰り返しながら何とか勝ち抜きました。いよいよ栄冠まであと2つ勝てばというところで地元(大分支部)選手に敗れてし

まいりました。大分県民ならいつでも好きな時に「ベリーツ」を食べられるだろうに譲ってもらえませんでした。おまけに残念賞は佐賀の丸ぼうろ…

特筆だったのは28歳と30歳の同窓生(農学部卒)が参加していたことです。やはり若い人がいると会に活気が出ます。彼らは「同級生が大分県内にたくさんいるので次回は誘って来たい」という発言を頼もしく感じました。

また、佐賀大学同窓会フェスの紹介をしたところ、同級生と観光ついでに行ってみたいという反応がありました。例えば、今人気のサウナ(佐賀県にはサウナに力を入れている施設あり)と抱き合わせで同窓会フェスの案内をすればよいなど新しいアイデアを閃きました。

翌日は琉球、とり天、だご汁と大分グルメを楽しんで佐賀に帰りました。次回は温泉と「ベリーツ」を楽しみたいと思います。



佐賀大学同窓会筑後支部総会に参加して

昭和58年経済学部 経営学科入学 坂田 智宏

令和7年5月31日(土)18時から柳川市にある「ランヴィエール勝島」にて筑後支部懇親会が開催され、令和5年に続いて参加してまいりました。参加者全員での写真撮影に始まり、大津支部長のご挨拶、来賓紹介、そして山田会長による来賓代表挨拶と続きました。

懇親会に入り、恒例の“アタマ柔らかクイズ大会”！前回はいくつか答えが分かりましたが、還暦を迎えた我が身にとって2年間という年月は残酷で、今回は10問中0という結果に終わってしまいました（一問紹介します、同じ月、同じ日に、同じ父親と同じ母親から生まれた2人の子供がいます。しかし、この2人は双子ではありません。

せん。なぜ？→わかりますか？)

フィナーレは恒例の「巻頭言」、実行委員の皆さまの毎回、進化を感じさせていただける出来栄でした。途中からは来賓も加わって、大変盛り上がりしました。

世話人の方ともお話しさせていただきましたが、今回は参加の声掛けを例年以上に行われた結果、柳川や大川、大牟田だけでなく、久留米や福岡からも参加していただいたとのこと。世話人の皆さまをはじめ参加者の皆さま、大変お疲れ様でした。

※クイズの答：二人は双子ではなく、三つ子だった



令和7年度佐賀大学同窓会熊本支部総会に参加しました

昭和56年経済学部 経済学科入学 江口 達也

令和7年6月14日(土)17時からアークホテル熊本城前で開催された佐賀大学同窓会熊本支部総会に参加してきました。会場はホテルの10階で目の前に熊本城を望む抜群のロケーションでした。

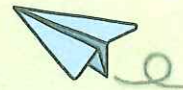
総会には44名の参加がありました。最初に熊本支部恒例の会友報告があり、教育学部S63年卒業の大塚芳生さんの講演では、中学生がロボットコンテストを通して成長する話に一同感動しました。続いて、立場久雄支部長挨拶があり、来賓挨拶、事業報告などがありました。記念写真撮影後、懇親会に入ったのですが、熊本城をバックに写真を撮るつもりでしたが、参加者が多く熊本城が隠れるハプニングがありました。懇親会では学部ごとにテーブルが分かれ共通の話題に花を咲かせました。熊本支部のもう一つの特徴は農学部卒業生による胡蝶蘭のプレゼントです。今年も見事な胡蝶蘭をお土産に持ち帰る同窓生がいました。きっと鼻高々で帰宅されたことでしょう。懇親会の最後は恒例の学生歌「楠の葉の」の合唱で締めくくりました。私は学生歌を歌えますが、佐賀大学と佐賀医科大学が合併し新「佐賀大学」になって20年以上が経ちます。今回も新しい学歌ができて以降卒業した同窓生が5名参加しています。「楠の葉の」は若い

同窓生にはなじみがありません。課題である若い人たちの参加を促すためには何かしらの工夫が必要だと思いません。

また、佐賀大学同窓会フェスの紹介をしました。まだまだ認知度は低いので、一人でも多くの同窓生に広めていくと共に、各地のタレントを発掘していきたいと思えます。

今回も熊本市に一泊して観光してきました。繁華街は夜遅くまで賑わい、熊本城は多くの観光客が訪れていました。佐賀大学が元気になることで佐賀県が元気になるよう、我々も同窓会活動を行っていききたいと思えます。





「木になる紙」の地産地消による地域振興と脱炭素に向けて

昭和59年経済学部 管理科学科入学 山口 和海

私は令和7年度から楠葉同窓会理事に復帰し、佐賀市役所支部長と兼務しています。職場には昭和63年に入社し、現在は総務部副理事兼契約監理課長として、主に建設工事や物品の入札・検査事務を担当しています。その中から、私（佐賀市）が関係している社会的に価値のある取組み「木になる紙」（過去4回受賞実績有り）について、以下のとおり紹介します。

佐賀市では平成21年度から未利用資源の地元間伐材を活用した用紙「木になる紙」の公共調達（全庁グリーン調達）を開始し、環境保護、森林保全、林業支援、地産地消などの政策効果を同時に目指す多面的で効率的な行政運営を実践してきました。これは経済価値の低い地元間伐材の有効活用による商品開発（最初はコピー用紙、その後封筒や印刷用紙などに拡大）に協力し、市場メカニズム（生産・流通・消費）を通じた公共調達の実践によって、循環型経済（サーキュラー・エコノミー）の実現に貢献する取組みです。

「木になる紙」製品の販売額の一部に含まれる、間伐材を抛出した森林所有者へ支給される還元金は、調達実績が高まるほど支給額が膨らみ、森林所有者の間伐意欲の喚起につなげる仕組みとなっています。平成26年度からは市内産の間伐材のみを使用した「佐賀の森の木になる紙」を生産できるまでの市場規模に拡大し、現在は県内の他の地方公共団体も巻き込んだ協調調達を行う新たな流通市場が形成され、紙の地産地消が強化されています。令和6年度までの過去16年間の調達実績がもたらした成果は累計で、間伐推進面積が約987ヘクタール、CO₂の吸収量が約4,487トン、還元金の支給額が約2,560万円、国内CO₂削減量が約506トン（カーボン・オフセット機能付商品購入）となり、これらはもし取組んでいなかったら得られなかった成果です。

そして、令和4年度からは炭素取引（J-クレジット）制度の活用も始めました。これは、「木になる紙」の調達実績に基づいた炭素価値（カーボン・クレジット：累計116トン）を無償で取得して佐賀市のCO₂総排出量と相殺し、市自らの排出量削減に活用しています。さらに、令和6年度からは市内全世帯に毎月宅配する市政広報誌（印刷用紙）の作成経費に「森林環境譲与税」の充当を開始し、より低コストの調達で効率的な行政運営に寄与しています。

佐賀市は「木になる紙」のモデル都市として、全国各地へ普及啓発に努めています。令和6年には著書も出版しました（『SDGs 自治体白書 2023-2024』）。現在は東日本に向けて展開中の段階ですが、令和7年4月には林野庁長官直々に称賛と激励のお言葉を頂戴しました。

今後も佐賀市は、地域振興策の一つとして「木になる紙」の生産から消費に至る取組みを継続することによって、市内中山間地域の活性化に貢献していきたいと考えています。



図1：「木になる紙」の取組み概要図



図2：著書（共著）：『SDGs 自治体白書 2023-2024』

令和6年度 事務局日誌

4月5日	楠葉同窓会	会計監査/事務局内	9月28日	全学同窓会	神埼地区会/割烹「菊水」
25日	楠葉同窓会	第1回楠葉同窓会役員会/多目的室	10月15日	全学同窓会	秋期定例役員会/多目的室
26日	楠葉同窓会	会長と経済学部部長打合せ/経済学部部長室	23日	全学同窓会	第4回佐賀大学同窓会フェス実行委員会/多目的室
5月1日	全学同窓会	春期定例役員会/多目的室	26日	全学同窓会	第13回ホームカミングデー
25日	楠葉同窓会	総会・懇親会/かささぎホール	11月6日	楠葉同窓会	第4回楠葉同窓会役員会/多目的室
30日	楠葉同窓会	会報委員会/事務局内	9日	全学同窓会	第2回佐賀大学同窓会フェス/佐賀駅前交流広場
6月1日	全学同窓会	熊本県支部会/ホテルメルパルク熊本	15日	全学同窓会	第5回佐賀大学同窓会フェス実行委員会/多目的室
17日	全学同窓会	第1回佐賀大学同窓会フェス実行委員会/多目的室	16日	全学同窓会	第32回佐賀県青春歌祭/エスプラッツ
7月2日	楠葉同窓会	第2回楠葉同窓会役員会/多目的室	27日	楠葉同窓会	経済学部との意見交換会/多目的室
9日	全学同窓会	第2回佐賀大学同窓会フェス実行委員会/多目的室	12月3日	楠葉同窓会	会長と経済学部部長打合せ/経済学部部長室
26日	楠葉同窓会	就職支援/教養教育2号館	2月8日	全学同窓会	唐津地区会/レストランパレット
9月1日	楠葉同窓会	「なんよう」No.114 会報誌発送	22日	全学同窓会	大分県支部会/ホルトホール大分
6日	全学同窓会	第3回佐賀大学同窓会フェス実行委員会/多目的室	3月4日	楠葉同窓会	第5回楠葉同窓会役員会/多目的室
9日	楠葉同窓会	第3回楠葉同窓会役員会/多目的室			

本部便り

会費納入のお願い

楠葉同窓会の運営経費は、会員の皆様からの会費によって賄われています。

会報「なんよう」(年1回発行)をご覧いただければ、県内外の同窓会活動を知っていただけるものと思っております。

身近に同窓生の集まり等もなく、参加する機会がない方にとって、会報やホームページが唯一の接点であり、情報発信を充実していくことで、同窓生とのつながりを維持しようと役員・事務局一同努めております。

しかし、近年、会費納入率が低下しており、同窓会運営も厳しくなっておりますので、どうか同窓会活動の趣旨をご理解いただき、お力添えをお願い申し上げます。

- 〈会費〉(1) 1年会員……2千円 (2) 10年会員……2万円
 (3) 終身会費……6万円(10年会費納入者は4万円)
 (4) 納入会費6万円に達した時点で終身会員とする

〈納入手続き〉会費納入の手続きは、上記ののうち、銀行、郵便局の「赤」の払込取扱票をご利用して下さい。ご不明な点がございましたら、事務局(0952-23-1253)または、ホームページ「お問い合わせはこちら」からご連絡下さい。

住所変更などの報告

同窓会会員名簿は、会員と同窓会、会員と大学、会員相互を繋ぐ資料として、また、大学が必要とする広報・統計資料として活用しています。個人情報、同窓会の財産として同窓会事務局で厳重に保管・管理を行います。

変更があった場合は、氏名、入学年度、住所、電話番号、勤務先を明記して、下記事務局に、電話・FAX、メールまたは、同窓会ホームページ「お問い合わせはこちら」からお知らせして下さい。



編集後記 本誌でも紹介されていますが、令和9年度に経済学部が改組されます。時代の変化に伴い社会から求められる人材を輩出すべく大学も対応(進化)し続ける必要があることを感じます。私事ですが、この4月から再雇用となりました。同窓会ではこれまで会報誌「なんよう」の編集に10年程携わり、100号の記念誌の制作や佐賀大学同窓会では理事長を務めさせていただくなど、まあまあそれなりのお役目を果たせたかなあと振り返ったりもいたします。仕事は古果(?)の部署で大学広報に携わっております。当時は大学広報誌「からがらす」を4年程担当し、また「カッチーくん」や「悠々知酔」、「バラフ」などのプロデュースや広報に関わることができました。今も大学の内外で支持していただいている様を改めて確認できて、とても嬉しい気持ちです。同窓会にはたくさんの元気な諸先輩方がおられますが、私ももう少し(まだまだ!?)、大学、同窓会のみならず、そして学生さんのお役に立てればと思っておりますので、引き続きご指導ご鞭撻を賜れば幸いです。 松尾 和俊(経済・昭58入)

発行 佐賀大学楠葉同窓会
 佐賀市本庄町 佐賀大学夢の実会館内
 TEL 0952-23-1253 FAX 0952-25-5700
 E-mail: dousoukai@sadai.jp

発行者 江口 達也(経済・昭56入)
 編集代表者 中島誠一郎(経済・平8入)